

世界遺産候補 霊山「安満岳」登山マップ

参道登山ルート

県道19号



山頂の奥には、潜伏キリシタンが参拝していた石塔がひっそりとあり、現在も大切にされています。その横には、薩摩塔と呼ばれる中国大陸との交易がうかがえる石塔があります。



西禅寺 廃寺の僧や修験者の墓と思われる石塔が数十基ほど辺り一帯に建てられています。崩れやすいので、触らないようご注意ください。

距離 0km 標高 180m

距離 0.1km 標高 200m

距離 0.4km 標高 250m

距離 0.55km 標高 300m

距離 0.7km 標高 350m

距離 0.85km 標高 400m

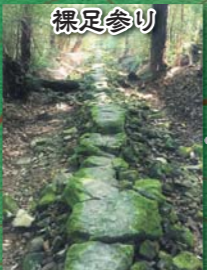
距離 1.1km 標高 450m

距離 1.5km 標高 500m

距離 1.8km 標高 534m



安満岳に登るいくつかのルートが交わる場所です。三の鳥居をくぐると裸足参りになります。広場には大きな平たい石があり、お殿様の駕籠を置く石だったのでは？という方もいます。



この区間は「裸足参り」と呼ばれ、昔は草履を脱いで、裸足で歩いてたといわれています。道の岩の裏には般若心経が刻まれているという言い伝えが残っています。



西禅寺は、この地域の真言密教の本寺として隆盛を極めました。が明治の廃仏毀釈で廃寺となり、今は、庭園と泉水がわずかに当時の面影を残しています。



白山比賣神社へ参拝する前に、ここでお参りをします。左が祇戸大神で、神社に入る前に自らを清める意味で参ります。右は安満岳の山王大神で、安満岳の山の神へお参りをします。



加賀石川恩の白山を本山としており、718年に建立されました。千五百年の歴史を誇り、安満岳全体が御神体として信仰の対象となっています。神道のみならず、安満岳は古くから修行僧の修験場だった歴史があります。



山頂からは、手前に平戸島の海岸部が望め、春日の棚田が海から山に段々に続いている景色が見れます。また、平戸島と生月大橋で繋がり、奥に生月島が広がります。

駐車場・トイレ 標高 435m 最短登山ルート

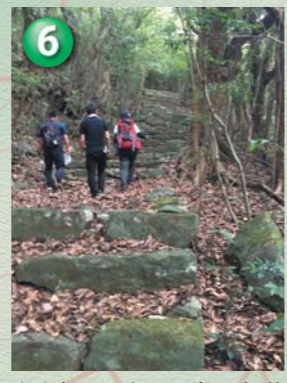


6~7の間で見つけてみよう!



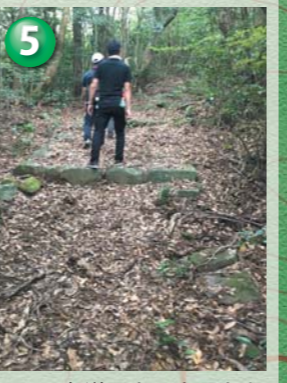
なだらかな上り坂が続きます。

石段のやや勾配を登る



やや勾配のある石段の参道を登っていきます。ここを登れば、平坦な道になります。

石段が所々現れる



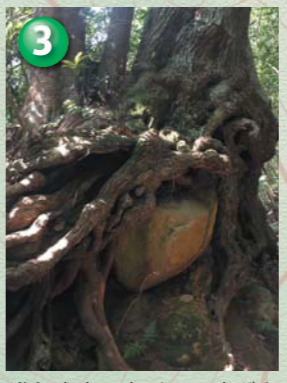
足元に参道のものと思われる石積みの段がちらほら出てきます。

勾配のある道が続く (大きな溝を歩くような道)



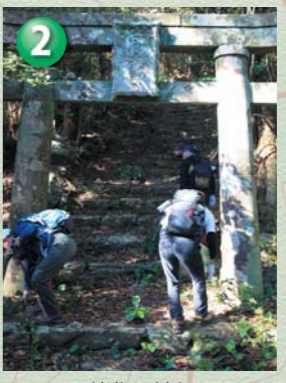
勾配がきつい登り坂が続きます。小さい浮き石が多いので滑らないよう注意。

岩を巻き込む巨木



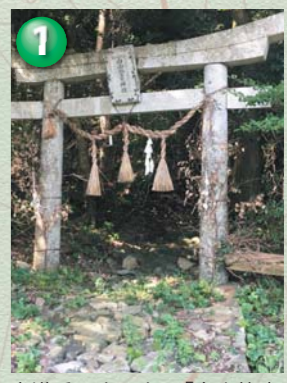
進行方向の左手に巨木があり、木の根っこに岩が挟まっています。

二の鳥居



400mほど進んだところに二つ目の鳥居があります。

一の鳥居(登山口)



安満岳頂上にある「白山比賣神社」への参道入口です。一つ目の鳥居が登山口になります。

世界遺産候補「平戸の聖地と集落」安満岳について

安満岳は、広い範囲にアカガシの原生林がのこり、白山比賣神社と参道、山頂部の石祠、西禅寺跡から構成されます。8世紀に頂上へ白山比賣神社が鎮座し、その後、修行僧の修験場となっていました。16世紀半ばになり、平戸島西海岸部はキリスト教への一斉改宗が行われましたが、西禅寺を中心とした山岳仏教勢力が大きな力を持ち、宣教師らと敵対しました。禁教時代になると、伝統的な宗教観と、キリシタンの聖地や殉教地への崇敬が融合して、平戸地方の潜伏キリシタンの聖なる山となり、今もなお山岳信仰が続いています。

- 「安満岳」は西海国立公園に指定されています。山でのマナー「ゴミは持ち帰る」「植物は採らない」「登山道はずれない」などは必ず守りましょう。
- 雨天時、雨天後の入山は大変危険です。特に「裸足参り」の区間は濡れていると間違いなく滑りますので入山しないようお願いいたします。
- 安満岳の登山道は「遊歩道」ではありません。登山者として、ご自身の責任で十分な装備の上、ガイドツアーにお申込みをしてご入山ください。

鯛の鼻自然公園